

News Release

株式会社あじかん

〒733-8677 広島市西区商工センター一丁目3番9号

2019年7月11日

ごぼう茶が大腸憩室炎の再発を予防する可能性を確認 (研究成果がオンライン科学誌『Scientific Reports』に掲載)

株式会社あじかん（社長：足利 恵一、本社：広島市西区）は、一般財団法人神奈川県警友会 けいゆう病院消化器内科部長の水城啓医師（現：東京シーフォートスクエアクリニック院長）と島根大学医学部第2内科教授木下芳一医師（現：社会医療法人製鉄記念広島病院 病院長）との共同研究において、ごぼう茶の飲用により、大腸憩室炎の再発を予防できる可能性を確認したことをお知らせします。

【 背景と目的 】

大腸憩室症は、欧米化・文明化した社会でよくみられる疾患です。加えて、近年の高齢化の進行により、その罹患率は増加しています。大腸憩室症の主な合併症には、大腸憩室出血（以下、「憩室出血」という）と急性大腸憩室炎（以下、「憩室炎」という）があり、どちらも治療後の再発率が高いという問題があります。そのため、消化器学分野では、憩室出血と憩室炎の再発を予防する方法を確立することが求められています。

本研究では、憩室出血および憩室炎の再発防止に対する、ごぼう茶の有効性について検討しました。

【 研究内容と結果 】

新たに診断された憩室出血（91名）または憩室炎（70名）の患者さんを、無作為に2つのグループに分け、一方のグループにのみ、1日3回（毎回1包分）のごぼう茶を飲用してもらいました。

憩室出血に関しては、ごぼう茶飲用による、再発の予防効果は認められませんでした。一方、憩室炎の再発に関して、ごぼう茶を飲用しないグループでは、再発率が31.8%であったのに対し、ごぼう茶飲用グループでは、10.6%と低下しました。また、憩室炎の再発までの期間に関しても、ごぼう茶を飲用しないグループでは、再発までの期間が45.1ヵ月であったのに対し、ごぼう茶飲用グループでは、59.3ヵ月と延長されました。

以上の臨床試験の結果、ごぼう茶を毎日飲用することにより、憩室炎の再発を予防できる可能性があることが示唆されました。

なお、本研究結果は、オンライン科学誌『Scientific Reports』（2019年5月1日）に掲載されております。（<https://www.nature.com/articles/s41598-019-43236-0>）

《本報道に関するお問い合わせ先》

株式会社あじかん 開発本部（担当：井上、高柳）【TEL】082-277-6044

以上